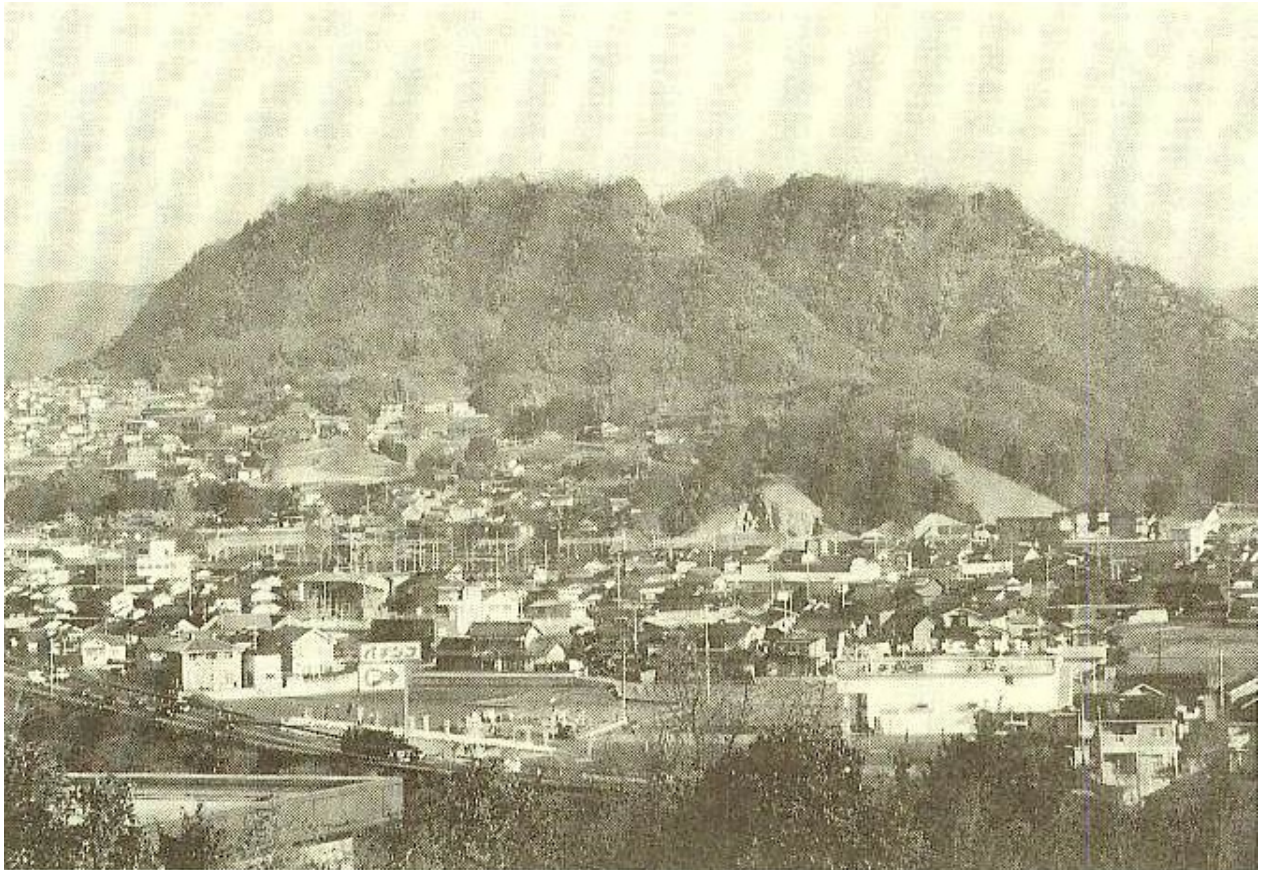


平成28年 2月徒歩例会

## << 安芸国本郷 高山城に登る >>



南より望む高山城跡

主催 備陽史探訪の会

講師 末森清司 (高山城研究家)

平成28(2016)年 2月21日(日)



<< 高山城跡探訪ルートを選定 >>

現在、高山城の南山稜、北山稜上の郭へ登る道は下記の三通りの道が残っている。

**塔の岡道南登城道・南道)**

城山の南面塔の岡より、南山稜の郭へ通じる道である。現在も整備されていて、登り易い。塔の岡丘陵は南に面して、日当たりの良い所である。この場所には城主居館・家老重臣屋敷などの武家屋敷があった場所と伝える所。途中岩が露出し、急坂で危険な場所もある。築城から室町期迄はこの道が大手道であったと思える。

**真良搦手道 (石積遺構の残る道)**

真良武士屋敷跡石垣郡の所より二の丸と北の丸の間にある切通し (門又は門跡?) に通じる登り道。つづら折りの道で四ヶ所に石落しの遺構が残る。要所要所に石積みがあり登城道としては一番しっかりしている。

③ **真良より三尺道 (農道)**

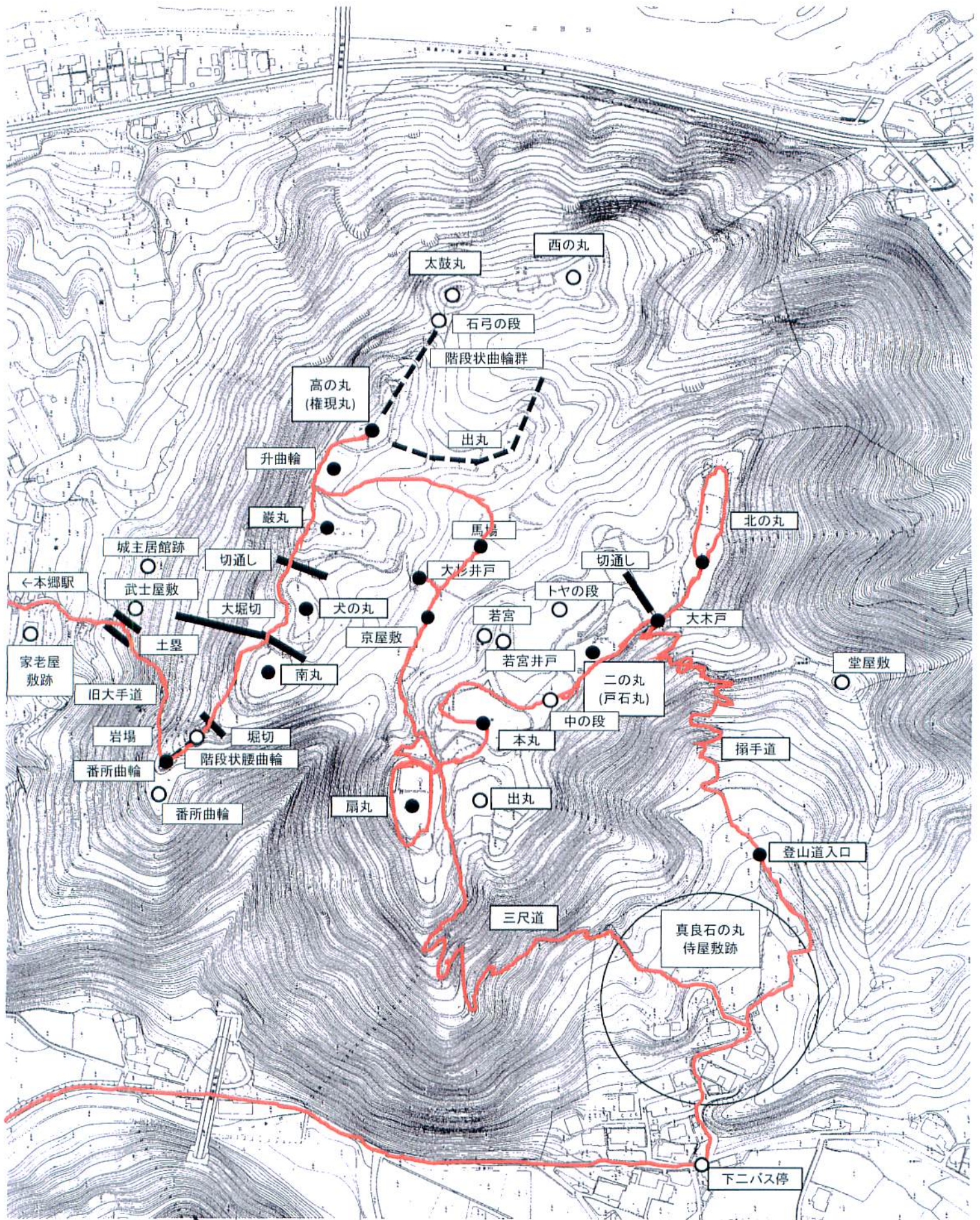
真良口より北稜の東斜面を登り、扇の丸と本丸下の切通しへ通じる道。三尺以上の幅があり、荷車を通したとの事。昭和30年頃まで農道として利用されていたが、今は荒れた道である。途中、扇丸の東下の小曲輪につきあたる。この場所は見張番所跡であり、見晴らしが良い。

以上の安心して登れる道の中から下記を選んだ。

**探訪コース(A)**

真良搦手道 を登り、塔の岡道南登城道から下山する。ただし、当日の天候次第ではより安全と思われる「③真良より三尺道 (農道)」から登る





「三原市教育委員会作成地図」を一部改変・追記



注意：上記の予定ルートは当日の現地の状況・事情により変更されます。



<< 探訪ルート >>

探訪コース(A) :時刻はいずれも、出発時間

歩行速度 2.54 km/h

8:32	福山駅発	本郷方面行き列車
9:22	本郷駅着	本郷方面行き列車
9:30	JR.本郷駅西広場集合	受付、挨拶、概要説明
9:45	JR.本郷駅西広場出発	出発、徒歩移動。
* 10:32	真良「下二(しもに)」バス停 (芸陽ハ	* 小休止、隊列確保。
10:51	(北山稜) 搦手道入口	* 小休止、隊列確保。
○ 11:30	(北山稜) 大木戸 (城郭口)	* 小休止、隊列確保。
○ 11:42	(北山稜) 北の丸跡	徒歩移動。
11:45	(北山稜) 二の丸 (戸石丸)跡	徒歩移動。
11:46	(北山稜) 中の段	徒歩移動。
○ 12:00	(北山稜) 本丸跡	* 小休止、隊列確保。
○ 12:14	(北山稜) 扇の丸跡	徒歩移動。
12:17	(中央) 京屋敷跡	徒歩移動。
○ 12:23	(中央) 大杉井戸跡	徒歩移動。
* 12:26	(中央) 馬場跡	* 小休止、隊列確保。
12:34	(南山稜) (升曲輪)	徒歩移動。
○ 13:34	(南山稜) 巖丸跡	* 昼食・小休止、隊列確保。
○ 13:47	(南山稜) 高の丸跡 (権現丸)	徒歩移動。
13:51	(南山稜) 巖丸跡	徒歩移動。
○ 14:04	(南山稜) 犬の丸跡	徒歩移動。
○ 14:16	(南山稜) 南丸跡	徒歩移動。
* 14:25	(南山稜) (大堀切)	* 小休止、隊列確保。
14:25	(南山稜) 木戸跡	徒歩移動。
○ 14:36	(南山稜) 東出曲輪(番所)跡	徒歩移動。
14:44	(塔の岡) 旧大手道(岩場)	徒歩移動。
14:47	(塔の岡) 旧大手道(土塁)	徒歩移動。
14:49	(塔の岡) 旧大手道口(家老屋敷跡)現天理教会	徒歩移動。
* 15:01	(塔の岡) ふれあい公園(便所有)	* 小休止、隊列確保。
15:19	JR.本郷駅西広場	到着、解散。

		③			
14:25	14:55	15:26	15:56	16:21	本郷駅発
15:05	15:34	16:17	16:51	17:02	福山駅着

福山方面行き列車  
福山方面行き列車

注意：上記の予定時間及び予定ルートは当日の現地の状況・事情により変更されます。

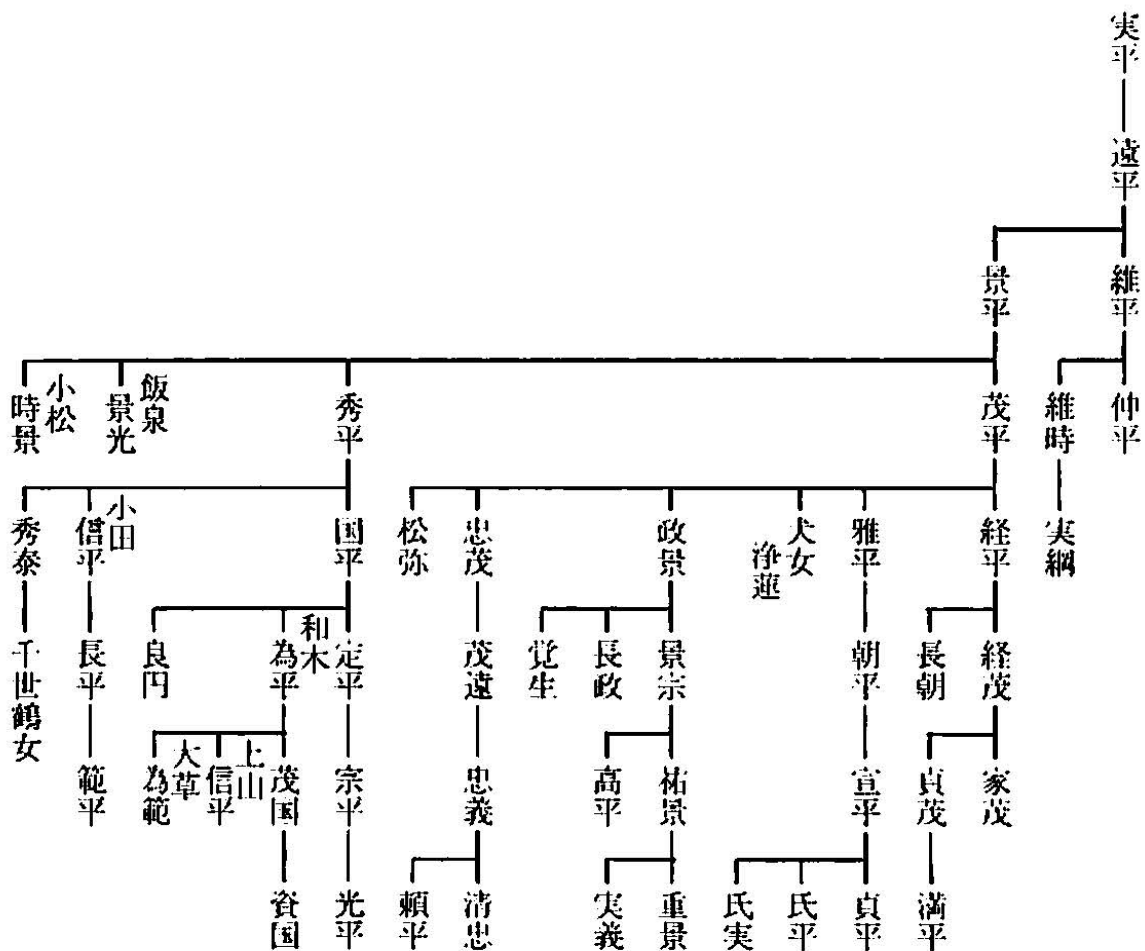
<< 国史跡「小早川氏城跡」高山城を探索する >>

高山城主沼田小早川氏は相模国土肥郷(神奈川県湯河原町付近)に起こった土肥実平より始まる。土肥実平、二代遠平父子は、鎌倉幕府を開いた源頼朝の側近として、源平合戦で活躍し、その勲功の賞として沼田庄を拝領する。沼田庄は源平合戦以前迄は平氏によって蓮華王院(京都三十三間堂)に寄進され同院を莊園領主として平家の家人だった沼田氏が本下司を務めていたが、平家が源平合戦で亡び沼田氏も共に滅亡し、没官領となっていた。四代茂平は建永元年(1206)祖父遠平、父景平より沼田庄地頭職を拝領し、一部郎党を引き連れ移住して、小早川氏の本拠として経営支配が勧められた。

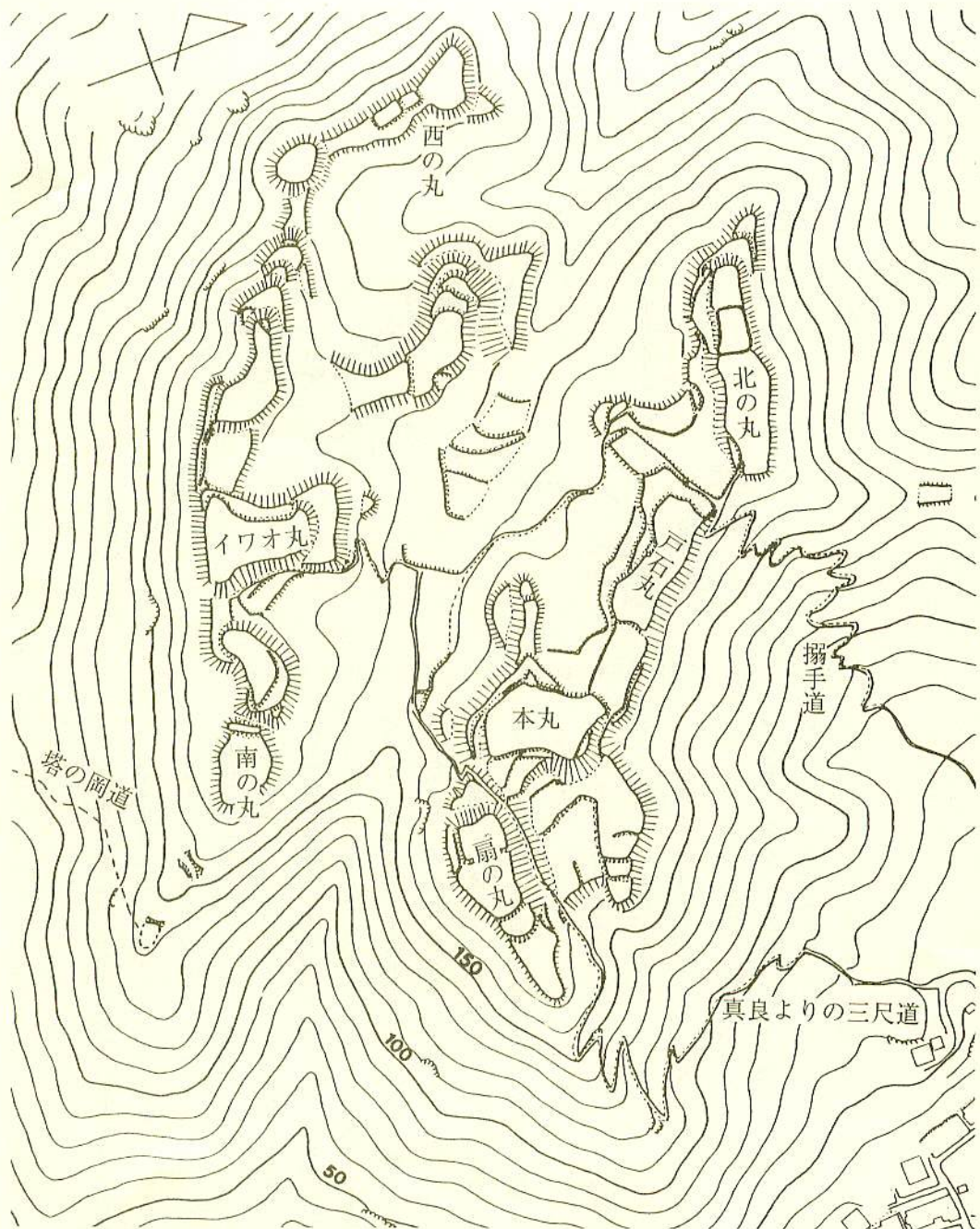
高山城は沼田庄の本拠地として茂平が建永年間(1206~)に築城したと伝えられ、以後、代々の城主により増築改修が行われ、17代隆景が新高山の支城を改修し本拠城として移城する迄375年間小早川氏の本拠城として栄えた。

高山城跡は、海拔約196m、広さ約16ha、周囲およその丘陵の山塊で中央に広い谷を挟み南側、北側の二つの山稜尾根から成り、一種独特な「連郭式中世山城」の遺構である。

城跡は、東に佛通寺川、西と南は沼田川が天然の堀の役目を果たし、本郷側南山稜の麓の塔の岡丘陵には、城主館及び家臣団の侍屋敷を置き、且つ、丘陵の各所には砦出城を築いて守りを固め、丘陵下一帯は海となっており、三方が水で囲まれた城地であり、山塊は切り立った岩が絶壁を成しており、見事な要害の城である。



小早川氏略系図 (『広島県史』中世より)



高山城跡略測図 1/4000

「広島県中世城館遺跡総合調査報告書」第3集より 一部改変

<< 高山城跡の遺構 >>

南山稜上の郭群 (鎌倉期の城跡)



A. 塔の岡道沿いの遺構 (鎌倉期の城跡)

塔の岡道は城山の南面塔の岡より南山稜の郭へ通じる道である。現在も整備されていて登りやすい。塔の岡丘陵は南に面して、日当たりの良い所である。この場所には城主居館・家老重臣屋敷などの武家屋敷があった場所と伝える所。途中岩が露出し急坂で危険な場所もある。築城から室町期迄はこの道が大手道であったと思える。

(1). 足助屋敷伝承跡 (現天理教・本郷分教場)

家老屋敷跡ともいわれている。登山道入口手前東側、石垣と井戸は当時の遺構と伝える。

(2). 城主居館跡?

登山道を登ると、左側南山稜麓一帯、雑木・竹藪・矢竹が茂り入る事が出来ない。高さ2m幅40mの石積の段3段有り居館跡ではないかと思うが不詳。ここより南斜面を西へ斜めに岩場を通り太鼓丸と高の丸への道があったが山崩れで消滅した。

(3). 武士屋敷跡

居館の東側を防備する屋敷跡と思える。土塁の一部が残る。現在は雑木・竹藪で、以前は畑地になっていた。この場所の南斜面に山上からの縦堀が見える。天然の谷を利用して手を加えたものである。この屋敷跡より山の斜面岩場の道を東へ登ると南陵の南の丸からのびる尾根上に着く。



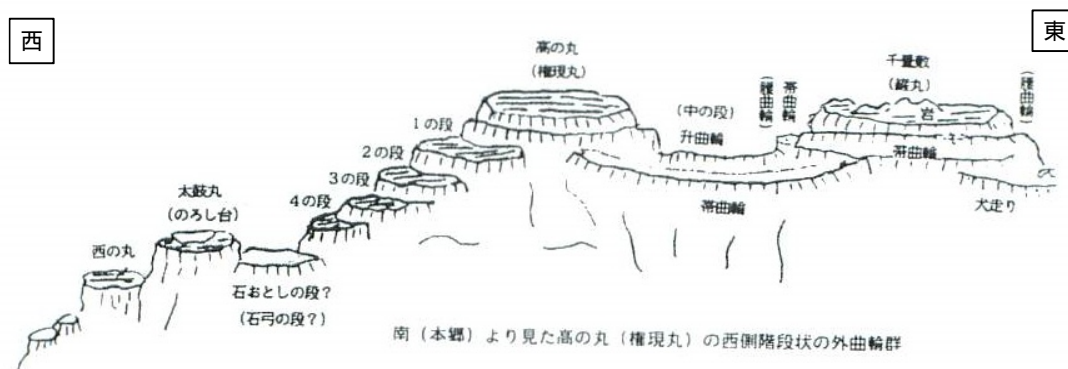
## B. 南山稜上の郭群 (鎌倉期の城跡)

本郷側南山稜に連なる標高の尾根上に地形を利用し、削平して築かれた古高山城は鎌倉前期に縄張された山城で形式は「連格式山城」の遺構である。各郭は地形を活かして造られているが、傾斜の緩い所は人手によって削り、急峻にしてある。

鎌倉期から南北朝頃迄は曲輪は削平地で堀切がある位であったが、その後、城を強固にする為手を加え、主要部及び支尾根上の小曲輪にも石積囲いで今見える姿となった。

各曲輪は山稜の地形に合わせて縄張りされてある。南と東西は急斜面岩が露出した崖状で、所々に谷が入り込み自然豎堀の役目を果たす。中央の谷側は傾斜が緩く、南陵の弱点である。この様な強固な城にするにはかなりの年代と人手がかかったことだろう。

北陵の要害施設がなかったら攻められ易かったと思える。



「南山稜」を南から見る

### (1). 西の丸(出丸)跡

鎌倉期から南北朝頃の西の番所・狼煙台。南稜の一段下西端に位置しているのでその名が残る。古い時代の山城曲輪の遺構を残す。太鼓丸から北へ下ると「西の丸」がある。標高161m、南北約80m、東西(幅)広い所で30m、狭い所で10mの広い面積である。太鼓丸からの尾根を削平して築かれた曲輪で番所が置かれたものと思われる。曲輪の中央部南側に大小の長方形の段があり、石が並び建物跡なのか現在は確認できなかった。南に位置する段は18mx8m余、北に位置する段は10mx8m。この場所に建物が建っていたと思える。この北側に半円状の小曲輪が連なり下からの防御の役目を果たす様に築かれている。この段を下に下ると堂谷で途中、神社があり、搦手西道と考えているが……

### (2). 太鼓丸跡

鎌倉期から南北朝頃の西の番所・狼煙台。曲輪の形状が丸いので付けられたと伝える。面白い伝承の話を聞いた。この段は狼煙台であったかも知れないが太鼓を備えた楼があり、要的な伝達事項等を城内や麓に伝えていた。場所的に見ても考えられるとの事。標高約165m、東西約20m、南北25mの円形である。曲輪は径15m余の円形に30cm高く土盛りをして固めてある。狼煙台を兼ねた見張台と考えられる。

(3). 高の丸跡 (権現丸)

鎌倉期から南北朝頃の二の丸と思われる。南陵の西端にあり、標高190.19mで城内で一番高い位置にあり、その名が付いたと思う。別に「権現丸」の名称有り。

城の裏、鬼門に当たり、郭の中央部に自然石とも岩とも思える大石が連なり、高くなっている。ここに社が祀られていたとの伝承あり。権現社と云う。郭の別名称でもある。郭は三日月形状に近い形で、東西65m弱、南北広い所で35m(東側部分)、狭い所で、10m余(西側部分)を有し、南側面は弓状に凹んでいる。南側には石積の帯曲輪が巖丸からのびており、その下は崖となっている。

(4). 出丸曲輪群 (南陵北側搦手曲輪)

高の丸からの支尾根上の出丸曲輪群のこと。高の丸から一段下がり、北方面に支尾根がのびる。この尾根上に「出丸」と記された広い曲輪が数段連なる。

この「出丸」何等かの名称があったと思えるが伝わっていない。

(5). 小曲輪 (巖丸と高の丸の間の曲輪)

巖丸と高の丸の間には一段と低くなった長方形の曲輪がある。東西約35m、南北20m余りの広さを有し、南側に土塁を残す。東側に帯曲輪があり、石積みが残る。この曲輪は「勢溜め」か何らかの建物があつたか不詳。

(6). 巖丸跡 (千畳敷)

南山稜の中央に位置する。鎌倉期から南北朝頃の本丸と思われる。この郭は外曲輪にあたる広い段と帯曲輪、腰曲輪が築かれて強固にしている。郭の南側に露出した大岩があることから名付けられたと思う。

もうひとつ「千畳敷」の名が残る。畳千枚も敷く程の広い建物、広い場所の意味だが、この郭には岩の上に柱穴が残り、大きな建物が存在したことを示す。

建物が火災で焼失した事も古文書に「火事で焼失」と記してあり、岩の変色具合や小早川文書からも知ることが出来る。郭は帯曲輪、腰曲輪を加えると東西60m、南北90m以上の広さを有する。上段だけでも、東西約60m(南側の広い部分)、中央と北面は25mから30mの広さがある。北側中央の谷に向かって腰曲輪が4段以上連なり、広い腰曲輪は東西45m以上、南北15m以上有し、いずれも石積である。南面は岩が露出急峻であるが、帯曲輪がある。茂平が建永年間より築城を始めて、南北朝頃まではこの郭が本城(本丸・主郭)であつたと考えられる。

大岩の西北部に岩を掘抜き、泉水地?とも思える遺構も今に残る。中央の谷より大杉の井戸の横から登って来る道は犬走りと帯曲輪で、この道の下斜面にも谷に向かって幾つもの曲輪が連なっている。





### (7). 犬の丸

鎌倉期から南北朝頃の三の丸思われる。この郭名は全く解らない。「寝ぬ(いぬ)」寝るという意味だが、城に関してみると、侍(武士)・兵士(番士)が常駐居住した建物が有り<不寝番が詰めていた郭とも考えられる。「犬」は番犬でもあり、番士が城番として居たとの意味もある。場所的にみて「犬の丸」はここ「巖丸」の守り、中央の谷からの備えの位置にある。

南丸の西側に位置し、標高約185m。郭は半月形状で南側が弓場に凹んでいる。石積み斜面で南側に帯曲輪(現在登山道)、北側は腰曲輪が5段以上中央の谷に向って、連なっている。東側は空堀(犬通し)、西側は切岸高さ5m、その下に四角形の削平地曲輪がある。この曲輪の西側巖丸の間は浅い空堀で、中央の谷からの通路となっている。犬の丸は巖丸と中央の谷からの通路の防備曲輪と考えられる。

名称は地図では「南丸」、古地図では「犬の丸」。なぜこの名称なのか不詳。

### (8). 南丸跡

鎌倉期から南北朝頃の三の丸思われる。南稜の東にあるので「東丸」とは言わず、「南の丸」である。城全体の位置から見て南にあたるのでこの名が付いたのか。

南山稜の東に位置し標高180mの高さにある。郭は苺の実のような形状で広い所で計ると東西約45m南北約32m。斜面を見ると切岸で要所に石積がしてある。

以前は気づかなかった!!) 西側には大土塁が残りその高さ2m近い。石積みで築かれており、西側にある犬の丸を大堀切空堀で遮断している。地図では「出丸」と記されているが、古地図では南丸と書かれている。筆者は「南の丸」と記します。

### (9). 東出曲輪跡

鎌倉期から南北朝頃の東の番所跡。南山稜の東側に連なる大小段の曲輪があるが番所に利用されたと思える。この曲輪へ登る途中、岩場の道脇両側に門柱の台石と考えられるものが今に残る。この曲輪群は南の丸の岩尾根を削平して築かれたと思う。

### C. 北山稜上の郭群 (鎌倉期の城跡)

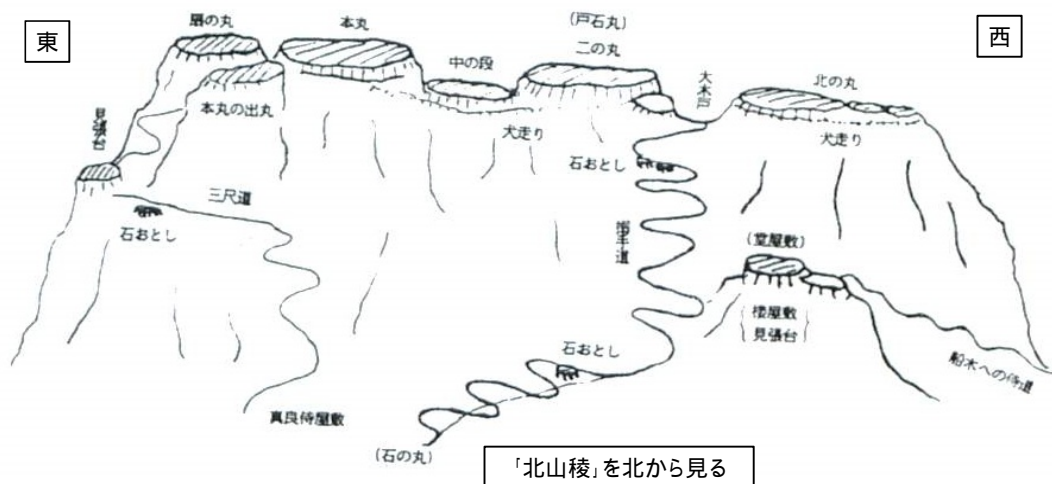
北山稜尾根上に連なる郭曲輪は、南北朝争乱期から当時は簡単な出城の砦であった高山城要害を強固な城郭にするために改修したり、新たに曲輪を築いて現在の姿にしたと言える。東から「扇の丸」、「本丸」、「戸石丸(二の丸)」、「北の丸」、「トヤの段」及びそれに付随する帯曲輪・腰曲輪までが、曲輪斜面に石積で補強されている。主要な廓の斜面は1m近い大石を使用しており、高さも4m以上の石積み見られる。(扇の丸斜面)縄張りも自然地形を活かし、戦国前期の山城の素晴らしさを随所に見せてくれる。

しっかりと、探査すると職人集団の城造りの技術を身近に見る事が出来る遺構である。

ただし、廃城後400年以上の年月の間、広い曲輪、平坦地は田畑となり、昭和30年以後は、耕作することもなく、石積は崩れて見る影もない位荒れている。又、本丸一段下から東へのびる支尾根と扇の丸の間にある馬蹄形の谷の平坦地は、2段となって広く居住に適した場所であり、何らかの遺構があったと思える。廃城後は田畑として利用されていた。

支尾根上には段ないし段の曲輪が連なり本丸東側の出丸の役割があったと思える。

今は雑木、笹、雑草で、踏み込む事も出来ず、遺構の確認は出来ない。北山稜の斜面には、北側は急峻だが曲輪が築かれている。南の中央の谷に向っては傾斜も緩く、腰曲輪が幾つも築かれているが、今はふみ込む事は出来ない。まだまだ未知の遺構が眠っており、今後の調査を楽しみにしている。



#### (1). 京屋敷跡 (中央)

南陵と北陵の間にある谷の中央に位置する場所にこの地名が残る。今もってその由来も解らない。以前筆者は以下の様なことを記した。

- ・都から移り住んだ人の屋敷があった。
- ・都から下って来る客人の宿舎があった。

#### ③. 足利將軍の京の屋敷に似た立派な建物があり、「京屋敷」と言っていた。

- ・城主の山上での居館のひとつで、都の様式の建物があった…とも考えられるが不詳。

この地名の残る場所に立派な瓦が残っていたとの伝えも有り、瓦葺きの立派な建物があった可能性もある。



(2). 馬場跡 (中央)

谷の南側「高の丸」の麓あたりに位置する。馬舎、走連場があったと思える。この地名はどこかの城跡に行ってもある。馬の路は谷道を利用したのだろう。馬場の近くには蓮池がある。今は藪の中で見る事は出来ないが昭和30年頃までこの谷は田畑あり、池の水を利用して、馬洗いの池でもあったかも知れない。

(3). 扇の丸跡 (北山稜)

真良側北陵の東にあり、高山城全体を見ると扇の要の位置に値する。依って、この郭名が付けられたと思う。別称に「寺屋敷」「成就寺丸」との伝え有り、この郭に寺院が建立されていた。平成26年11月17日に探索した時には、見当たらなかったが以前ここに五輪塔の残欠があったのだが、

(4). 本丸跡 (北山稜)

北稜郭群の主郭、この城が使われていた当時は「本丸」と呼ばれていなかった。本当の名称があったと思うが伝わっていない。

(5). 二の丸(戸石丸)跡 (北山稜)

今は、「二の丸」と呼ばれているが、「戸石丸」の由来伝わらず。重臣に戸石と名乗る武士がおり、ここを守備していたのか??

(6). 北の丸跡 (北山稜)

高山城の主要郭では一番北に位置する。依って、この郭名が付けられたと思う。

(7). 牢屋敷跡 (北山稜)

北の丸の下から北へ延びる支尾根上にあり。「堂(牢)屋敷」と地図に記すが船木鷲谷から搦手道に通じる抜道の要所に当たり北の丸と鷲谷からの防御の場所。

郭と番士が駐留する建物(弓矢等の武器も置かれていた?)もある番所曲輪であったと思われ、「郭屋敷」ではなかったか? 「ドヤシキ」は土屋敷と書き、土の壁で造った建物倉の様な武器庫があり、「ドヤシキ」の名が伝わっていたのではなかろうか。

どちらにしても、番所であったと考えられる。

(8). トヤの段 (北山稜)

二の丸(戸石丸)の南側下に位置する曲輪。兵士が常駐し中央の谷を見張ってたと伝える。宿舎とも言う。「泊屋」とも記し、広い曲輪で建物があつたと思えるが、本来の名称と思っている。城を利用していた当時の名称であつたかは定かではない。

廃城後に名付けられた様でもある。名称ひとつとっても筆者には謎。

以上、文書校正・編集  
備陽史探訪の会 沖 正明

<< 参考文献 >>

- (1). 「山城探訪・福山近辺の山城30選」(備陽史探訪の会、平成7年5月27日発行)  
(P.136 ~ P.146)「山城を探索する -国史跡「小早川氏城跡」高山城を例にして-」  
(末森清司著)
- (2). 備陽史研究「山城志(第23選)」(備陽史探訪の会、平成27年7月1日発行)  
(P.68 ~ P.80)「高山城跡総記」(末森清司著)
- (3). 本郷生涯学習センターから提供された資料 (2015.12.15受領分)
- (4). 「新高山城」の記述に関する部分は、備陽史探訪の会の「城郭研究部会」の藤波平次郎・住本雄司氏両氏作成のガイド本「早春の沼田本郷に小早川氏の夢を訪ねる」、平成15年3月2日実施)の内容を一部引用した。





# 備陽史探訪の会

---

【事務局】

〒720-0824 広島県福山市多治米町5-19-8

TEL 084-953-6157

E-mail [info@bingo-history.net](mailto:info@bingo-history.net)

公式サイト

<http://bingo-history.net>